

わたしの教材・教具



櫻井宏明
埼玉・元支援学校教員



くだもののおいを感じ取る



自分で操作したい！



市販の電気製品のオンオフを赤外線リモコンで制御する製品を改造した。ラッチ（一度スイッチを入れるとその状態を保持）やタイマー機能を付け加えることもある。

ジュースを使った生ジュースづくり

肢 体不自由特別支援学校高等部の重度の生徒たちのグループでの授業でとりくんだジュースづくりを紹介します。Rさんは視覚障害を併せもち外界を受けとめにくい生徒で、不意に聞こえる掃除機などのモーター音に泣き出してしまいます。さらに年齢とともに身体の変形や拘縮^{こうしゆく}が進み、外界への働きかけが大きく制約されるようになってきました。それでも自分の手が動かせる範囲に鈴やタンバリンなどがあると、何度も意図的に手を動かします。「自分で外界を操作したい！」というねがいをもっていることがわかります。

嗅 覚は、脳の深部、辺縁系^{へんえんけい}と呼ばれる部位にある嗅中枢で情報処理される原始的な感覚ということで、それまでも障害の重い生徒に対していろいろなにおいや香りを嗅ぎ分ける学習がおこなわれていました。そうした学習について私は、「『刺激』を与えて『反応』を引き出す」ことが授業といえるのだろうか」「はっきりした『反応』を求めるあまり、与えるにおいはより刺激的なものになっていき、生徒たちの『もっとやりたい』という学習の意欲を高めているのだろうか」とい

う疑問をもっていました。

そ こで、嗅覚や味覚に働きかけるにしても、においあるいは味だけを『刺激』として取り出すのではなく、それと結びついた生活の文化としてジュースづくりの授業として組織することにしたのです。ジュースをつかって味わう、身近な人にも振る舞うことは生徒にとってわかりやすく、興味ももて、社会的評価を受けて人間関係や社会的つながりの広がりが期待できると考えました。

ま ず、生徒たちはくだものを直接さわってみます。次に皮をむいたり、カットしたりしておいを感じ取ります。それから教員と一緒にジュースを使っのジュースづくりです。赤外線コントローラーとスイッチを使うことで生徒自身が操作することができます。家庭電化製品を赤外線コントロールする機器はホームセンターでも販売されています。これに外部スイッチがつながるように改造しました。授業を重ね、見通しがもてるようになったRさんが、自分の操作するジュースのモーター音で泣き出すことはありません。